

# 栗原市病院事業経営健全化計画

令和2年度

— 重点取組事項等に対する点検・評価報告書 —

栗原市立病院経営評価委員会

【 所管：栗原市病院事業 医療局医療管理課 】



## 目 次

### 令和2年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

1 栗原中央病院の取組みに対する意見等	-----	1～2
2 若柳病院の取組みに対する意見等	-----	2
3 栗駒病院の取組みに対する意見等	-----	2～3
4 総括	-----	3
資料1 各委員からの意見、要望、提言	-----	4～5
資料2 令和2年度重点取組事項に係る自己点検・評価		
■ 栗原中央病院	-----	6～7
■ 若柳病院	-----	8～9
■ 栗駒病院	-----	10～11
<< 自己点検・評価の記載項目 >>		
1 病院の果たすべき役割（経営方針）		
2 取組実績に対する点検		
(1) 医療機能確保の視点		
(2) 財務の視点		
(3) 業務プロセスの視点		
(4) 学習と成長の視点		
3 収支計画及び決算（収益的収支）		
4 主な経営指標及び実績		
5 自己評価（病院総括）		
[添付資料]		
別紙1 市立3病院収支計画及び決算	-----	12～15
別紙2 市立3病院経営指標	-----	16～18
資料3 栗原市立病院経営評価委員会委員名簿	-----	19
資料4 栗原市立病院経営評価委員会設置要綱	-----	20

栗原市病院事業 第三次経営健全化計画  
令和2年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

栗原市病院事業から提出された「令和2年度重点取組事項等に係る自己点検・評価」及び「決算関係資料」をもとに、第三次経営健全化計画における市立3病院の取組実績について点検を行った結果は、次のとおりである。

令和3年11月10日

栗原市立病院経営評価委員会  
委員長 平川 秀紀

## 1 栗原中央病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、内科医、循環器内科医、皮膚科医の医師をそれぞれ招へいすることができ、年度末の常勤医師数は33人となり、昨年度と比較し5人の増員となった。スタッフが増えたことで、多様な医療が可能となり、良い方向に向かうと思われる。

令和3年度から病床数の適正化が行われ、令和2年度はその移行期であり、しかも、新型コロナウイルス感染症の影響があるなかで、よく頑張られたと評価する。また、新型コロナウイルス感染症対策として、療養病床50床のうち15床を新型コロナウイルス感染症患者対応の一般病床に変更し、県北の地域医療を支えていることに敬意を表したい。

救急車受け入れ人数は2,017人で前年度と比較し195人減り、救急患者受け入れ数は4,908人で前年度と比較し933人減っている。これは、栗原市消防の救急搬送件数が、前年度と比較し297件減っている現状から、新型コロナウイルス感染症の影響と考えられる。

一般病床の病床利用率は、69.0%で、計画値の83.2%に比べ大幅に低くなっている。収支改善のためには、病床利用率の向上が必要不可欠と考え、安定的な経営のためには、最低でも70%以上ということが挙げられているため、病床利用率向上に向けた取り組みを着実に実施していただきたい。

経費削減については、特に、診療材料費、委託費など、これまでも充分削減しており、よく頑張られている。また、新型コロナウイルス感染症の影響があるなかで、単価を上げ医業収益が増収していることは、大変な努力だと評価する。

令和2年度は、医業外収入に関して、新型コロナウイルス感染症の病床確保に対する補

助金や一般会計からの繰入金が増額があり、収益的収支は黒字に転じているが、いつまでも新型コロナウイルス感染症の受入病床に対する空床補償が続くわけではないので、今後の病院経営を考えたときには、診療報酬改定の動向などを注視していく必要がある。

## 2 若柳病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、内科医1人を招へいたことにより、令和3年度からは常勤医師数が5人体制となった。昨年度に引き続き、医師を招へいすることができたが、医師、看護師等の高齢化も進んでいることから、将来を見越した医師等の確保策を講じられ、更なる診療体制の充実に努めていただきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響により、外来患者、入院患者ともに大きく減少したことが、そのまま減収に大きく響いていると推察する。医業収支比率、病床利用率、患者数も計画目標値を下回る結果となったが、令和2年8月から地域包括ケア病床を導入し、診療単価の増加に向けた取り組みは評価できる。地域包括ケア病床は、開業医や栗原中央病院、栗駒病院との連携を図り、在宅や急性期から紹介患者を増やす必要がある。在宅医療・介護支援機能は、地域の病院として非常に重要な役割を担っているので、更なる機能の充実に努めていただきたい。

病床利用率は、計画目標値に対し乖離しているが、令和3年度に実施された病床数の適正化によって、次年度以降については、改善が図られるものと期待する。

## 3 栗駒病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、常勤医師が2人と少ないなか、地域で唯一の入院施設をもつ病院として、地域医療を支えていることに敬意を表したい。しかし、医師や医療スタッフの不足に加えて、高齢化も進んでいるので、若柳病院と同様に将来を見越した医師等の確保に努めていただきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響も非常に大きいと思われ、入院患者、外来患者とも前年度を下回っており、医業収支比率、病床利用率も計画目標値には届かず、経営は非常に厳しい。

地域の人口減少が進んでいるものの、地域密着型慢性期医療の拠点病院として、地域の

ニーズに合った医療提供体制の構築を推進されたい。

また、令和3年度からこれまでの一般病床45床、療養病床30床を、療養病棟のみの45床に適正化を図ったことで、病院経営の改善が図られるよう期待する。

#### 4 総括

市立3病院の新型コロナウイルス感染症への対応について、地域のニーズに応えた取り組みが行われたことに対し、敬意を表する。医師の確保が進んだことは、病院事業管理者、各病院長をはじめとする関係者の努力があったものと評価する。経費節減も着実に実施されており、非常に大きな環境の変化があるなかで、努力を積み重ねている様子が見て取れた。

一方で、市立3病院の経営は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなど、依然として非常に厳しい状態にある。新型コロナウイルス感染症関連の補助金は一時的なものであり、今後の動向を注視し、柔軟な対応を求めるものである。

市立3病院とも、病床利用率が70%を下回っており、持続可能な病院事業の運営のためには80%以上の病床利用率が必要と思われるので、病床利用率向上に向けた取り組み（新規入院患者の獲得）を着実に実施することが必要である。病床数の適正化が令和3年度から実施されたことによって、病床利用率は改善すると思われるが、それだけに満足せず、市立3病院の機能分担の明確化、適正な人員配置による人件費の適正化などを行い、病院経営の健全化を図られるよう期待する。

# 資 料

各委員からの意見、要望、提言

**【栗原中央病院】**

- 地域の中核病院としての役割を果たすため、医師の増員等や新型コロナウイルス感染症患者の受け入れなど、安定的な医療提供を行っていると思う。
- 患者数は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、医業収入は入院診療単価等の上昇により増加した。一方で、医業費用も増加したが、材料費や委託料の抑制など、経営努力の成果が見られる。
- 地域医療支援病院の指定など、診療報酬加算取得可能な項目の洗い出しを行い、積極的に取得に向かってほしい。
- 新型コロナウイルス感染症関連補助金や一般会計繰入金が増額などの特殊要因によるところではあるが、収益的収支が黒字となったことは評価できる。

**【若柳病院】**

- 内科医 1 名を招へいすることができたので、今後、診療体制が充実していくことを期待する。
- 地域包括ケア病床の導入により、地域の医療介護連携の中心となる病院機能が明確になり、今後の取り組みへの具体策が分かりやすくなったのではないかと。
- 常勤の医師、看護師の高齢化も進んでいるため、将来を見通した医療スタッフの確保策を講じる必要がある。
- 地域包括ケア病棟の稼働率を上げるには、更なる病院間の連携、病院と診療所間の連携が必要になるため、積極的・能動的な連携構築を期待する。



### 【栗駒病院】

- 少ない医師数で地域を守ることは、本当に大変だったと思う。
- 入院機能を慢性期に特化したことにより、少しでも医師負担を軽減し、地域医療を支えることができるよう、在宅医療の強化も含め今後を期待する。
- 病床数の適正化や療養病床への転換を前倒しで実施したことにより、医療スタッフ等の充実度合いも変わってくると思われるので、病床削減等の効果を注視しながら進める必要がある。
- 令和3年度から実施された病床数適正化の効果に期待する。

### 【全体】

- 市立3病院の新型コロナウイルス感染症への対応について、地域のニーズに応えるべく取り組まれていることに、敬意と感謝の意を表したい。
- 市立3病院の経営は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなど、依然として厳しい状態にある。補助金等の支援は一時的なものであり、先行き不透明な状況は、今後も続くと予想される。
- これからの地域医療構想を含めて、3病院の機能分担と各病院のそれぞれの強みの強化を図るべきである。
- 戦略的なマネジメントシステムであるバランススコアカードを導入しており、計数管理技法として、経営財務分析、生産性分析、損益分岐点分析、キャッシュフロー計算書の作成を行っており、自己点検・分析は妥当と考える。
- 市立3病院のほか、市立診療所が4施設あるので、診療所も含めた市全体のこれからの計画をしっかりと立てていくことが必要である。
- より効率的な病院運営のためにも、令和3年度から実施された病床数適正化とともに、最適な入院診療体制及び運用の構築を図ることを期待する。

令和 2 年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗原中央病院
-----	--------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域の中核病院として、高度医療や二次救急医療の役割を担い、急性期医療を中心に小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療の提供、また、栗原地域の災害時における災害拠点病院としての機能、さらに、基幹型臨床研修指定病院としての役割を担っています。

また、市民が必要な時に“安全”で“安心”できる医療を提供できるように努めるとともに、市内一次医療機関や近隣医療機関との病病連携・病診連携を図り、市民に質の高い適切な医療を安定的に提供します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
新型コロナウイルス感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>療養病棟を、コロナ患者対応病棟に変更</li> <li>感染対策WG等での対応検討</li> <li>オンラインによる面会対応 (R2 : 40 件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き発熱外来による診察や県の入院要請に対応する</li> <li>ワクチン接種の対応</li> </ul>
急性期医療及び回復期医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急車受入人数 2,017 人(前年度比 195 人減)</li> <li>地域医療体制確保加算取得 (21,906 千円)</li> <li>救急患者受入 4,908 人(前年度比 933 人減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の整備・充実</li> <li>救急医療体制の充実</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>内科、循環器内科、皮膚科等の医師各 1 人が増となり、令和 2 年度当初の常勤医師数は 33 人で、対前年度比 5 人増となった。</li> <li>オンラインによる病院説明会 (R2 : 38 件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な医師の招へい活動 (R2 末 : 33 人⇒ R3 当初:35 人)</li> <li>初期臨床研修医の増 (R2 末: 10 人⇒ R3 当初:11 人)</li> </ul>
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養後方支援病院登録患者 87 人</li> <li>紹介患者数 6,562 人 (前年度比 833 人減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療支援病院の検討</li> </ul>

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策 (金額は対前年度比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種指導管理料増加額 H30 : 18,834 千円</li> <li>R1:19,535 千円 R2:7,740 千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介患者、救急患者の受入増加</li> <li>急性期入院料 1 の維持</li> </ul>
経費削減・抑制対策 (金額は価格交渉による減額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期継続契約の実施などにより光熱水費の削減 Δ 13,224 千円</li> <li>委託料等の削減 H30:Δ 1,044 千円</li> <li>R1:Δ 8,826 千円 R2:Δ 15,205 千円</li> <li>診療材料医薬品抑制 H30:Δ 2,095 千円</li> <li>R1:Δ 15,458 千円 R2:Δ 35,231 千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 3 年度以降も継続して経費削減抑制に取り組む</li> <li>病床再編、業務改善による人件費削減に取り組む</li> </ul>

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療の標準化とチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>結核地域連携カンファレンスを開催</li> <li>感染対策チーム、糖尿病チーム NST 活動</li> <li>クリニカルパスの推進 (R2 : 25.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなパス作成の推進</li> </ul>
医療の質と安全の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全対策チームによる職場ラウンド</li> <li>全自病医療の質公表事業に参加 (H28 年～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全の推進・徹底</li> </ul>

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実、専門医等の資格取得やスキルアップの支援</li> <li>・緩和ケア認定看護師資格の取得 1人</li> <li>・認定看護管理者 1人</li> <li>・看護協会認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 3人 セカンドレベル 2人</li> <li>・看護協会実習指導者講習 1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的、体系的な人材育成</li> <li>・オンラインによる講演会の開催</li> </ul>

3 収支計画及び決算 (収益的収支)

(単位:千円)

区分	H30 年度		R01 年度		R02 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	4,265,550	4,431,033	5,122,528	4,478,695	5,183,898	4,745,414
医業外収益	818,110	726,346	532,809	1,015,016	474,438	1,534,638
特別利益	0	0	0	3,767	0	113,309
合 計	5,083,660	5,157,379	5,655,337	5,497,478	5,658,336	6,393,361
医業費用	4,863,470	5,041,156	5,347,700	5,650,025	5,328,856	5,784,401
医業外費用	272,166	285,031	279,959	289,574	302,285	303,480
特別損失	1,100	7,269	1,100	1,380	1,100	113,831
合 計	5,136,736	5,333,456	5,627,659	5,940,979	5,632,241	6,201,712
当年度経常損益	△ 51,976	△ 168,808	27,678	△ 445,888	27,195	192,171
当年度純損益	△ 53,076	△ 176,077	26,578	△ 443,501	26,095	191,649

4 主な経営指標及び実績

(単位:%)

	H29 年度		H30 年度		R01 年度		R02 年度		
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	
経常収支比率	99.0	97.2	99.0	96.8	100.5	92.5	100.5	103.2	
病床利用率	73.3	66.1	76.7	68.5	81.0	61.6	82.7	61.6	
内 訳	一般病床	74.0	68.3	76.4	68.8	81.2	64.8	83.2	69.0
	療養病床	70.0	55.1	78.0	66.9	80.0	62.3	80.0	4.3
	結核病床*	-	-	-	-	-	32.0	-	33.8
職員給与費比率	54.9	54.1	54.7	52.8	50.7	57.8	50.0	65.0	
医業収支比率	87.0	85.1	87.7	87.9	96.7	79.3	98.3	82.0	

5 自己評価 (病院総括)

新型コロナウイルス感染症に対応するため、療養病床 50 床であった 5 階東病棟を、一般病床 17 床のコロナ専用病棟に転換し、残る 33 床は休床あるいは廃止とした。

患者数は、年度前半のコロナ禍等により 4 月から 6 月までの 1 日平均外来患者数が前年同月対比で 53.8 人減、新入院患者数が 148 人減となり、結核を除く年度新入院患者数は 3,874 人で、前年度と比較し 102 人の減となった。

医業収益は前年度と比較し 266,719 千円の増となった。その要因としては、一般病床の患者数及び診療単価が増となり、入院収益が前年度と比較し 278,542 千円の増となったことがあげられる。

費用は、全体で 260,733 千円増となったものの、入院収益の増額や新型コロナウイルス対応の補助金、一般会計繰入金金の増額などにより、収益的収支は 191,649 千円の黒字となった。

## 令和2年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	若柳病院
-----	------

### 1 病院の果たすべき役割（経営方針）

「生活医療圏」の中での医療の提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一次救急はもとより、可能な限りの二次救急を行い、地域住民に信頼される病院を目指します。

### 2 取組実績に対する点検

#### (1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携室が入退院支援にかかわった実績は728人、延べ3,968件であった。</li> <li>・地域包括ケア病棟への他院等から受け入れた患者は21人であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟導入に伴い、更に入退院支援を充実させていく必要がある。</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月より、内科医師を1名招へいすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師の高齢化が進行していることから地域医療を担う若手・中堅医師の招へいを継続的に進める。</li> </ul>

#### (2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟の導入 R2年8月～R2年3月 27,500千円の増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床削減に伴い一般病床と地域包括ケア病床の効率的な利用を図る。</li> </ul>
経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期継続契約の実施などにより光熱水費の削減 △2,379千円</li> <li>・老朽化し多額の修繕費用が見込まれた冷温水発生機の更新を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した施設設備の修繕費用と更新費用を比較し、施設の維持費用を削減していく必要がある。</li> </ul>

#### (3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療研修受入施設として研修内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の研修受入実績 栗原中央病院研修医 2人 仙台医療センター研修医 1人 リハビリテーション科実習生 12人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ、在宅患者訪問褥瘡管理等の研修内容の充実を図り、仙台医療センターや栗原中央病院等の研修医の受け入れを行う。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は中高生の体験学習の受入は出来なかったが、時期を見ながら再開していく。</li> </ul>

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師研修会延べ 44 人</li> <li>・看護協会認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 2 人 セカンドレベル 1 人</li> <li>・院内研修会出席延べ 903 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、院外での研修は最小限であったが、院内での研修は充実することができた。</li> </ul>

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H30 年度		R01 年度		R02 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,557,348	1,362,774	1,573,689	1,340,244	1,569,043	1,280,383
医業外収益	270,188	264,566	253,282	260,074	270,323	367,366
特別利益	0	0	0	1,124	0	42,405
合 計	1,827,536	1,627,340	1,826,971	1,601,442	1,839,366	1,690,154
医業費用	1,718,512	1,689,933	1,700,749	1,728,265	1,713,958	1,746,412
医業外費用	109,218	102,447	115,671	126,303	114,374	109,664
特別損失	780	414	780	749	780	9,534
合 計	1,828,510	1,792,794	1,817,200	1,855,317	1,829,112	1,865,610
当年度経常損益	△ 194	△ 165,040	10,551	△ 254,250	11,034	△ 208,327
当年度純損益	△ 974	△ 165,454	9,771	△ 253,875	10,254	△ 175,456

4 主な経営指標及び実績

（単位：％）

	H29 年度		H30 年度		R01 年度		R02 年度	
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績
経常収支比率	99.6	98.0	100.0	90.8	100.6	86.3	100.6	88.8
病床利用率	76.7	73.3	82.5	64.4	83.3	65.8	83.3	56.6
内 一般病床	73.3	70.5	82.2	61.5	83.3	62.4	83.3	53.1
訳 療養病床	86.7	81.7	83.3	73.3	83.3	75.9	83.3	67.2
職員給与費比率	55.7	58.3	55.1	61.1	54.5	65.1	54.7	76.8
医業収支比率	90.3	87.9	90.6	80.6	92.5	77.5	91.5	73.3

5 自己評価（病院総括）

令和2年度は常勤医師4名の体制でスタートしたが、12月より内科医師1名を招へいすることができた。新型コロナウイルス感染症の影響等により、患者数は昨年度と比較すると入院は4,101人の減（1日平均11.0人の減）で病床利用率が56.6%となり9.2%の減、外来は7,216人の減（1日平均31.8人の減）となった。

8月より地域包括ケア病棟の導入を行い、診療単価の増が図られたものの、医業収益は計画額と比較して288,660千円の減となった。しかし、地域医療構想を推進するための病床削減支援給付金33,516千円の特別利益もあり、当年度純損失は175,456千円となった。

令和3年度は病棟の再編を行い適正規模を維持しながら、更に在宅医療・介護支援機能の充実を図る。

令和2年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗駒病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域に密着した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、良質な医療を提供し、地域住民の健康を守ることに全力を尽くし、信頼される病院を目指します。また、「和顔愛語」「恕」の精神で多くの住民から愛される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の開業医との連携から、月2回の当直や週1回の診療協力をいただいている。</li> <li>栗原中央病院への紹介件数は、新型コロナの影響で195件となり、前年より63件減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栗原中央病院や地域の開業医との連携を強化していく。</li> </ul>
介護施設との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者は新型コロナや病棟再編移行の影響により、前年度と比較すると延べ1,433人の減となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高齢化率が高く、在院日数も長くなっているため、介護施設とさらなる連携を図る</li> </ul>
病床の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>病床機能及び適正病床数の検討による病棟再編（療養病棟のみの45床）を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、病床利用率80%以上を目標とする。</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に医師招へい活動を行っているが、常勤医師数は3人から2人に減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常勤医師の招へいが進まない場合は、現在の医師体制で対応可能な運営を検討する。</li> </ul>

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年1月から地域包括ケア病床について、看護職員配置加算(1日150点)算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年4月から地域包括ケア病床が算定出来なくなる。</li> <li>病棟再編後の体制に則した施設基準の届出を行う。新規加算や基準見直しにより増収を図る。</li> </ul>
経費削減・抑制対策 (金額は対前年度比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期継続契約の実施などにより光熱水費の削減 Δ1,456千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き費用削減に取り組む。</li> </ul>

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療安全の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメント委員会 12回</li> <li>リスクカンファレンス 31回</li> <li>医療機器安全管理委員会 12回</li> <li>院内研修 29回、延べ 640人</li> <li>院外研修 9回、延べ 23人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会の伝達研修や院内研修の充実を図り、医療事故防止に努める。</li> </ul>
地域医療研修及び中高生の体験学習受入	<ul style="list-style-type: none"> <li>栗原中央病院研修医 1人</li> <li>中学生の福祉体験学習 (中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して研修の受入を実施する。</li> </ul>

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	・看護協会認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 1人 セカンドレベル 1人 ・認知症対応力向上研修 2人	・学会発表及び各種研修への参加を継続し、職員の専門性の向上とレベルアップを図る

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H30 年度		R01 年度		R02 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	722,875	606,198	724,123	608,433	722,123	565,776
医業外収益	239,149	218,461	271,818	194,873	275,366	204,002
特別利益	0	0	0	0	0	37,730
合 計	962,024	824,659	995,941	803,306	997,489	807,508
医業費用	941,640	890,656	939,430	887,700	939,468	866,694
医業外費用	44,718	41,064	47,181	42,601	48,287	41,932
特別損失	850	15	850	4,603	850	4,681
合 計	987,208	931,735	987,461	934,904	988,605	913,307
当年度経常損益	△ 24,334	△ 107,061	9,330	△ 126,995	9,734	△ 138,848
当年度純損益	△ 25,184	△ 107,076	8,480	△ 131,598	8,884	△ 105,799

4 主な経営指標及び実績

（単位：％）

区分	H29 年度		H30 年度		R01 年度		R02 年度	
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績
経常収支比率	90.8	85.1	97.5	88.5	100.9	86.3	101.0	84.7
病床利用率	74.7	62.9	80.0	66.2	80.0	66.4	80.0	61.3
内 一般病床	71.1	53.9	80.0	60.2	80.0	63.5	80.0	55.0
内 療養病床	80.0	76.3	80.0	75.2	80.0	70.7	80.0	70.9
職員給与費比率	76.1	81.4	70.9	77.0	70.8	76.3	71.0	93.9
医業収支比率	72.3	65.0	80.0	68.1	77.1	68.5	76.9	65.3

5 自己評価（病院総括）

令和2年度の延患者数は前年度と比較すると入院では1,433人の減、外来で854人の減という結果になった。これは、新型コロナウイルス感染症や、病棟再編移行に伴う影響等によるものと分析している。

入院収益は前年度と比較して34,442千円の減、外来収益は6,227千円の減となった。このため、医業収益は計画額と比較して156,347千円の減、当年度純損益は114,683千円の減となったが、決算額では前年度比25,799千円の損失の減となった。これは、地域医療構想を推進するための病床削減支援給付金33,060千円の特別利益によるものである。

令和2年3月から新型コロナウイルス感染対策のため、外来患者に対し電話診療により症状が安定している患者は1か月程度の処方を行うなどの緊急的な対応を行った。

地域の人口減少が進んでいるものの、地域で唯一の入院施設を持つ医療機関として、また、地域密着型慢性期医療の基幹病院として、地域のニーズに合った医療提供体制の構築を推進していく。

別紙1 市立3病院収支計画及び決算

1 栗原中央病院（結核病棟分含む）

（単位：千円）

区分	年度	H30年度		R01年度		R02年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		4,265,550	4,431,033	5,122,528	4,478,695	5,183,898	4,745,414
(1) 入院収益		2,951,771	3,027,036	3,412,994	3,026,458	3,479,123	3,305,000
(2) 外来収益		1,002,008	1,046,194	1,080,432	1,104,365	1,076,004	1,089,787
(3) その他医業収益		147,575	170,573	464,906	160,642	464,575	163,397
(4) 他会計負担金		164,196	187,230	164,196	187,230	164,196	187,230
2 医業費用		4,863,470	5,041,156	5,347,700	5,650,025	5,328,856	5,784,401
(1) 給与費		2,334,823	2,338,992	2,564,491	2,590,390	2,564,491	3,084,195
(2) 材料費		688,995	830,458	734,221	860,655	741,221	932,463
(3) 経費		1,373,215	1,425,634	1,487,720	1,745,756	1,478,393	1,315,242
(4) 減価償却費		443,413	423,000	537,039	429,777	520,522	442,025
(5) 資産減耗費		3,843	9,412	3,843	8,610	3,843	3,973
(6) 研究研修費		19,181	13,660	20,386	14,837	20,386	6,503
医業損失／医業利益		△ 597,920	△ 610,123	△ 225,172	△ 1,171,330	△ 144,958	△ 1,038,987
3 医業外収益		818,110	726,346	532,809	1,015,016	474,438	1,534,638
(1) 受取利息配当金		1	5,321	1	60	1	13
(2) 他会計補助金		417,881	281,174	199,876	248,885	182,876	437,609
(3) 補助金		26,464	24,842	26,438	27,287	26,416	623,948
(4) 負担金交付金		264,291	296,321	120,303	288,149	89,011	280,006
(5) 長期前受金戻入		76,929	85,499	153,647	85,625	143,590	75,568
(6) その他医業外収益		32,544	33,189	32,544	365,010	32,544	117,494
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		272,166	285,031	279,959	289,574	302,285	303,480
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		126,728	123,577	118,937	115,182	109,857	106,557
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	0	0	0	0
(4) 雑支出		145,438	161,454	161,022	174,392	192,428	196,923
経常利益／経常損失		△ 51,976	△ 168,808	27,678	△ 445,888	27,195	192,171
5 特別利益		0	0	0	3,767	0	113,309
(1) その他特別利益		0	0	0	3,767	0	113,309
6 特別損失		1,100	7,269	1,100	1,380	1,100	113,831
(1) 過年度損益修正損		600	1,160	600	878	600	468
(2) その他特別損失		500	6,109	500	502	500	113,363
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		△ 53,076	△ 176,077	26,578	△ 443,501	26,095	191,649
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△ 6,206,760	△ 6,196,059	△ 6,259,836	△ 6,366,136	△ 6,233,258	△ 6,809,637
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△ 6,259,836	△ 6,372,136	△ 6,233,258	△ 6,809,637	△ 6,207,163	△ 6,617,988

※ 端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※ 地方公営企業決算状況調査より。



## 1 栗原中央病院 結核病棟分【別掲】

(単位：千円)

区分	年度	H30年度		R01年度		R02年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益				437,782	93,132	437,782	106,777
(1) 入院収益				120,782	93,086	120,782	106,645
(2) 外来収益				0	0	0	0
(3) その他医業収益				317,000	46	317,000	132
(4) 他会計負担金				0	0	0	0
2 医業費用				502,754	265,667	502,754	247,819
(1) 給与費				190,000	196,780	190,000	177,314
(2) 材料費				40,226	7,787	40,226	7,234
(3) 経費				190,990	60,155	190,990	62,896
(4) 減価償却費				80,333	0	80,333	0
(5) 資産減耗費				0	0	0	0
(6) 研究研修費				1,205	945	1,205	375
医業損失／医業利益				△ 64,972	△ 172,535	△ 64,972	△ 141,042
3 医業外収益				80,333	186,847	80,333	140,578
(1) 受取利息配当金				0	0	0	0
(2) 他会計補助金				0	0	0	0
(3) 補助金				0	578	0	688
(4) 負担金交付金				0	49,975	0	64,982
(5) 長期前受金戻入				80,333	0	80,333	0
(6) その他医業外収益				0	136,294	0	74,908
(7) 雑収益				0	0	0	0
4 医業外費用				15,361	309	15,361	494
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費				0	0	0	0
(2) 繰延勘定償却				0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却				0	0	0	0
(4) 雑支出				15,361	309	15,361	494
経常利益／経常損失				0	14,003	0	△ 958
5 特別利益				0	0	0	0
(1) その他特別利益				0	0	0	0
6 特別損失				0	0	0	0
(1) 過年度損益修正損				0	0	0	0
(2) その他特別損失				0	0	0	0
(3) 臨時損失				0	0	0	0

## 2 若柳病院

(単位：千円)

区分	年度	H30年度		R01年度		R02年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		1,557,348	1,362,774	1,573,689	1,340,244	1,569,043	1,280,383
(1) 入院収益		988,920	779,688	1,003,004	766,861	1,000,263	735,598
(2) 外来収益		462,534	463,394	464,791	453,362	462,886	428,175
(3) その他医業収益		40,270	49,340	40,270	49,669	40,270	46,258
(4) 他会計負担金		65,624	70,352	65,624	70,352	65,624	70,352
2 医業費用		1,718,512	1,689,933	1,700,749	1,728,265	1,713,958	1,746,412
(1) 給与費		858,434	832,722	858,434	873,019	858,434	983,193
(2) 材料費		218,259	197,468	218,259	181,853	218,259	180,116
(3) 経費		516,781	536,965	491,781	538,987	491,781	418,585
(4) 減価償却費		119,091	117,475	126,328	114,330	139,537	151,963
(5) 資産減耗費		1,612	2,803	1,612	17,712	1,612	11,103
(6) 研究研修費		4,335	2,500	4,335	2,364	4,335	1,452
医業損失／医業利益		△ 161,164	△ 327,159	△ 127,060	△ 388,021	△ 144,915	△ 466,029
3 医業外収益		270,188	264,566	253,282	260,074	270,323	367,366
(1) 受取利息配当金		60	2,059	60	2	60	1
(2) 他会計補助金		107,699	106,064	82,699	104,406	115,922	188,890
(3) 補助金		1,228	1,310	1,228	1,299	1,228	9,889
(4) 負担金交付金		156,347	146,228	164,937	145,375	149,032	161,053
(5) 長期前受金戻入		2,757	3,282	2,261	3,029	1,984	2,859
(6) その他医業外収益		2,097	5,623	2,097	5,963	2,097	4,674
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		109,218	102,447	115,671	126,303	114,374	109,664
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		51,579	50,954	49,023	48,231	46,555	45,449
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		8,251	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251
(4) 雑支出		49,388	43,242	58,397	69,821	59,568	55,964
経常利益／経常損失		△ 194	△ 165,040	10,551	△ 254,250	11,034	△ 208,327
5 特別利益		0	0	0	1,124	0	42,405
(1) その他特別利益		0	0	0	1,124	0	42,405
6 特別損失		780	414	780	749	780	9,534
(1) 過年度損益修正損		680	414	680	718	680	649
(2) その他特別損失		100	0	100	31	100	8,885
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		△ 974	△ 165,454	9,771	△ 253,875	10,254	△ 175,456
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△ 455,861	△ 413,377	△ 456,835	△ 578,831	△ 447,064	△ 832,706
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△ 456,835	△ 578,831	△ 447,064	△ 832,706	△ 436,810	△ 1,008,162

※ 端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※ 地方公営企業決算状況調査より。

## 3 栗駒病院

(単位：千円)

区分	年度	H30年度		R01年度		R02年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		722,875	606,198	724,123	608,433	722,123	565,776
(1) 入院収益		455,304	378,783	456,552	383,232	455,304	348,790
(2) 外来収益		183,558	147,073	183,558	144,136	182,806	137,909
(3) その他医業収益		21,474	18,334	21,474	19,057	21,474	17,069
(4) 他会計負担金		62,539	62,008	62,539	62,008	62,539	62,008
2 医業費用		941,640	890,656	939,430	887,700	939,468	866,694
(1) 給与費		512,370	466,538	512,370	464,354	512,370	531,047
(2) 材料費		80,955	59,775	80,955	63,266	80,955	57,654
(3) 経費		274,468	294,324	274,468	292,576	274,468	209,666
(4) 減価償却費		68,403	67,968	66,193	64,212	66,231	64,385
(5) 資産減耗費		2,601	924	2,601	2,367	2,601	3,456
(6) 研究研修費		2,843	1,127	2,843	925	2,843	486
医業損失／医業利益		△ 218,765	△ 284,458	△ 215,307	△ 279,267	△ 217,345	△ 300,918
3 医業外収益		239,149	218,461	271,818	194,873	275,366	204,002
(1) 受取利息配当金		10	1,285	10	1	10	1
(2) 他会計補助金		49,300	53,800	65,674	53,800	118,670	64,517
(3) 補助金		0	0	0	0	0	4,829
(4) 負担金交付金		184,195	158,782	200,842	136,324	151,519	129,850
(5) 長期前受金戻入		2,920	2,964	2,568	2,878	2,443	3,195
(6) その他医業外収益		2,724	1,630	2,724	1,870	2,724	1,610
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		44,718	41,064	47,181	42,601	48,287	41,932
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		17,835	17,416	17,083	16,664	16,348	15,881
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		3,999	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999
(4) 雑支出		22,884	19,649	26,099	21,938	27,940	22,052
経常利益／経常損失		△ 24,334	△ 107,061	9,330	△ 126,995	9,734	△ 138,848
5 特別利益		0	0	0	0	0	37,730
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	37,730
6 特別損失		850	15	850	4,603	850	4,681
(1) 過年度損益修正損		800	15	800	13	800	13
(2) その他特別損失		50	0	50	0	50	4,668
(3) 臨時損失		0	0	0	4,590	0	0
当年度純利益／純損失		△ 25,184	△ 107,076	8,480	△ 131,598	8,884	△ 105,799
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△ 402,707	△ 466,019	△ 427,891	△ 573,095	△ 419,411	△ 704,693
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△ 427,891	△ 573,095	△ 419,411	△ 704,693	△ 410,527	△ 810,492

※ 端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※ 地方公営企業決算状況調査より。

別紙2 市立3病院経営指標

1 栗原中央病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
◎ 病院機能評価	計画						
	実績						
◎ 1日平均入院患者数	計画	197.0人	220.0人	230.0人	243.0人	248.0人	
	実績	189.3人	198.2人	205.5人	193.2人	183.8人	
◎ 1日平均外来患者数	計画	375.0人	391.0人	392.0人	410.0人	410.0人	
	実績	364.8人	383.3人	407.0人	422.8人	397.3人	
◎ 紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	60.5%	63.0%	62.5%	66.8%	64.1%	
◎ 逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	44.3%	41.0%	35.9%	39.6%	44.9%	
◎ 医業収支比率	計画	83.6%	87.0%	87.7%	96.7%	98.3%	
	実績	84.6%	85.1%	87.9%	79.3%	82.0%	
◎ 病床利用率	計画	65.7%	73.3%	76.7%	81.0%	82.7%	
	実績	63.1%	66.1%	68.5%	61.6%	61.6%	
	実績 (結核除く)	—	—	—	64.4%	64.4%	
内訳	一般病床	計画	67.2%	74.0%	76.4%	81.2%	83.2%
		実績	66.3%	68.3%	68.8%	64.8%	69.0%
	うち地域包括ケア病床	実績	60.5%	66.3%	73.1%	66.0%	76.0%
	療養病床	計画	58.0%	70.0%	78.0%	80.0%	80.0%
		実績	47.1%	55.1%	66.9%	62.3%	4.3%
結核病床	実績	—	—	—	32.0%	33.8%	
◎ 平均入院単価	計画	36,512円	36,579円	35,161円	37,017円	37,101円	
	実績	36,769円	39,981円	40,357円	40,830円	46,759円	
内訳	一般病床	計画	39,957円	40,368円	38,950円	41,039円	41,042円
		実績	39,765円	44,152円	45,219円	47,081円	47,817円
	うち地域包括ケア病床	実績	30,917円	31,802円	30,628円	30,650円	31,511円
	療養病床	計画	16,554円	16,554円	16,605円	16,605円	16,605円
実績		15,672円	14,110円	15,363円	16,883円	17,668円	
◎ 平均外来単価	計画	10,480円	10,480円	10,476円	10,800円	10,800円	
	実績	10,346円	10,291円	10,534円	10,883円	11,290円	
◎ 経常収支比率	計画	95.3%	99.0%	99.0%	100.5%	100.5%	
	実績	97.1%	97.2%	96.8%	92.5%	103.2%	
◎ 平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	17.5日	14.9日	13.9日	13.3日	15.5日	

※ 平均在院日数(一般病床)は、地域包括ケア病床(50床)を除いて算出した数値

栗原中央病院・結核病棟分【別掲】

経営指標項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
◎ 1日平均入院患者数	計画	—	—	—	12.0人	12.0人
	実績	—	—	—	9.3人	9.8人
◎ 平均入院単価	計画	—	—	—	27,576円	27,576円
	実績	—	—	—	27,433円	29,618円

2 若柳病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
㊦ 病院機能評価	計画						
	実績						
㊦ 1日平均入院患者数	計画	90.0人	92.0人	99.0人	100.0人	100.0人	
	実績	93.0人	88.0人	77.3人	79.0人	68.0人	
㊦ 1日平均外来患者数	計画	197.0人	200.0人	205.0人	206.0人	206.0人	
	実績	196.4人	189.7人	173.8人	167.1人	135.3人	
㊦ 紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	42.7%	46.6%	43.7%	47.4%	57.4%	
㊦ 逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	38.0%	47.2%	43.7%	42.6%	34.4%	
㊦ 医業収支比率	計画	89.2%	90.3%	90.6%	92.5%	91.5%	
	実績	92.9%	87.9%	80.6%	77.5%	73.3%	
㊦ 病床利用率	計画	75.0%	76.7%	82.5%	83.3%	83.3%	
	実績	77.5%	73.3%	64.4%	65.8%	56.6%	
内訳	一般病床	計画	71.1%	73.3%	82.2%	83.3%	83.3%
		実績	74.6%	70.5%	61.5%	62.4%	53.1%
	うち地域包括ケア病床	計画	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	53.9%
療養病床	計画	86.7%	86.7%	83.3%	83.3%	83.3%	
	実績	86.1%	81.7%	73.3%	75.9%	67.2%	
㊦ 平均入院単価	計画	28,885円	28,986円	27,367円	27,404円	27,404円	
	実績	27,847円	27,861円	27,633円	26,536円	29,664円	
内訳	一般病床	計画	33,546円	33,546円	31,077円	31,077円	31,077円
		実績	32,078円	32,397円	31,317円	30,248円	34,758円
	うち地域包括ケア病床	計画	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	36,446円
療養病床	計画	17,411円	17,411円	16,387円	16,387円	16,387円	
	実績	16,844円	16,108円	18,363円	17,383円	18,525円	
㊦ 平均外来単価	計画	9,584円	9,584円	9,247円	9,247円	9,247円	
	実績	9,717円	9,830円	10,927円	11,306円	13,020円	
㊦ 経常収支比率	計画	99.4%	99.6%	100.0%	100.6%	100.6%	
	実績	103.6%	98.0%	90.8%	86.3%	88.8%	
㊦ 平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	19.0日	19.4日	18.3日	19.6日	15.5日	

3 栗駒病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
◎ 病院機能評価	計画						
	実績						
◎ 1日平均入院患者数	計画	53.0人	56.0人	60.0人	60.0人	60.0人	
	実績	47.4人	47.2人	49.7人	49.8人	46.0人	
◎ 1日平均外来患者数	計画	96.0人	98.0人	110.0人	110.0人	110.0人	
	実績	94.8人	87.2人	85.4人	87.3人	82.7人	
◎ 紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	18.9%	19.6%	24.3%	26.4%	13.8%	
◎ 逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	15.6%	15.9%	32.2%	12.1%	16.1%	
◎ 医業収支比率	計画	71.3%	72.3%	76.8%	77.1%	76.9%	
	実績	67.7%	65.0%	68.1%	68.5%	65.3%	
◎ 病床利用率	計画	70.7%	74.7%	80.0%	80.0%	80.0%	
	実績	63.2%	62.9%	66.2%	66.4%	61.3%	
内訳	一般病床	計画	68.9%	71.1%	80.0%	80.0%	80.0%
		実績	58.0%	53.9%	60.2%	63.5%	55.0%
	うち地域包括ケア病床	計画	—	—	—	—	—
		実績	34.8%	51.8%	50.3%	65.5%	51.5%
療養病床	計画	73.3%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	
	実績	70.9%	76.3%	75.2%	70.7%	70.9%	
◎ 平均入院単価	計画	21,064円	20,830円	20,790円	20,790円	20,790円	
	実績	20,329円	20,221円	20,897円	21,026円	20,769円	
内訳	一般病床	計画	25,913円	25,779円	25,057円	25,057円	25,057円
		実績	25,415円	25,967円	23,963円	26,005円	26,189円
	うち地域包括ケア病床	計画	—	—	—	—	—
		実績	23,300円	24,152円	23,636円	23,538円	24,861円
療養病床	計画	14,231円	14,231円	14,390円	14,390円	14,390円	
	実績	14,084円	14,126円	17,211円	14,319円	14,466円	
◎ 平均外来単価	計画	7,023円	7,023円	6,839円	6,839円	6,839円	
	実績	6,959円	7,100円	7,061円	6,880円	6,863円	
◎ 経常収支比率	計画	89.8%	90.8%	97.5%	100.9%	101.0%	
	実績	87.6%	85.1%	88.5%	86.3%	84.7%	
◎ 平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	20.1日	18.0日	19.2日	19.6日	18.0日	

※ 平均在院日数（一般病床）は、地域包括ケア病床（8床）を除いて算出した数値

## 栗原市立病院経営評価委員会委員名簿

任期：令和元年8月20日から 令和4年3月31日まで

No	所 属	役職名	氏 名	備 考
1	山形市病院事業	管理者	平 川 秀 紀	◎ 委員長 (山形県)
2	医療法人社団静実会 (ないとうクリニック)	副理事長	内 藤 広 郎	○ 副委員長 (仙台市)
3	一般社団法人 栗原市医師会	会長	宮 城 島 堅	(栗原市)
4	仙台赤十字病院	事務部長	後 藤 孝 浩	(仙台市)
5	公益社団法人 宮城県看護協会	副会長	瀧 島 美 紀	(仙台市)
6	宮城県総務部市町村課	課長	諸 星 久美子	(仙台市)
7	矢川昌宏公認会計士事務所	代表	矢 川 昌 宏	(石巻市)

(敬称略)

栗原市立病院経営評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗原市病院事業経営健全化計画（以下「計画」という。）に基づく取組状況、計画の見直し等に関する事項及び市立病院事業の経営全般について評価、検討等を実施し、市立病院事業の経営健全化等を図ることを目的として栗原市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に基づく取組状況、計画の見直し等に関すること。
- (2) 市立病院の経営全般について評価、検討等を実施すること。
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める者

3 委員の任期は3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、議事に係る関係者又は専門家に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医療局医療管理課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成20年12月 1日から施行する。

平成24年 7月 1日 一部改正

(会議の招集の特例)

2 この告示の施行後、最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、病院事業管理者が招集する。



栗原市病院事業 医療局 医療管理課

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

TEL 0228-21-5631 FAX 0228-21-5632

URL: <https://www.kuriharacity.jp/>

E-mail: [medical@kuriharacity.jp](mailto:medical@kuriharacity.jp)